平成28年6月14日（火）陸奥新報（3面）

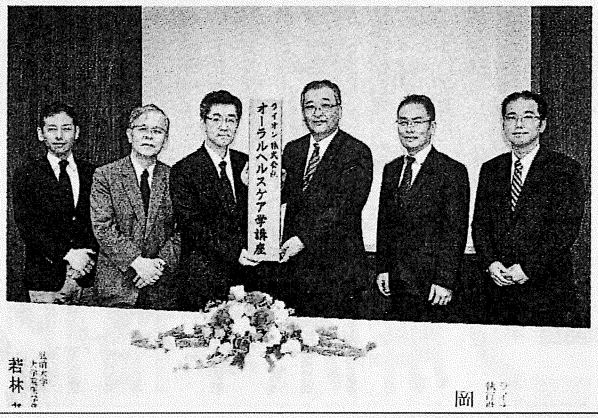
弘大に全国初「オーラルヘルスケア学講座」

口腔と全身の関係研究

ライオン参画 健診データを分析

弘前大学大学院医学研究科に5月、ライオン（本社東京都）の寄付講座「オーラルヘルスケア学講座」が開設された。医学と歯学の枠を超え、口腔と全身の健康状態との関係を研究するオーラルヘルスケアに特化した全国初の講座。弘大が中心となって行う「岩木健康増進プロジェクト健診」で蓄積されたビッグデータを解析・活用することで、口腔環境と病気の関係、さらには睡眠と全身の健康との関係についても科学的実証を目指す、弘前発の画期的な取り組みだ。

（西尾瑛）



寄付講座開設式を行った、弘大の中路教授（左から2人目）、若林医学研究科長（同3人目）ライオンの岡野氏（同4人目）ら

2005年から続いている岩木プロジェクト健診では、毎回約1000人の地区住民の健康状態をおよそ600項目にわたり詳細に調査。今回開設された講座では、同プロジェクトを主導している中路重之教授や、ライオンの客員研究員がこのデータを解析し、例えば睡眠や糖尿病、腸内細菌といった600項目と口腔環境との関係を解明し、口腔機能や睡眠を改善し生活習慣病の予防につながる製品やサービス創造に活用、オーラルヘルスケアの啓発を行う。

近年、全身の健康に口腔ケアが大きな影響を及ぼすとされ、歯周病と糖尿病・肥満・動脈硬化との相関関係が指摘されているが、講座ではこれまで積み上げてきた膨大なデータを解析することで、より深く詳細に、さまざまな全身の状態との関係性を実証することが期待される。

ライオンは、健康づくりの研究を行う弘大COI研究推進機構に昨年から参画し、共同研究を進めてきた。13日に同大医学研究科で行われた寄付講座開設式で、同社執行役員研究開発本部長の岡野知道氏は「体、そして心の健康のためには、虫歯や歯周病の予防だけではなく、もう一段進んだ新しいオーラルヘルスケアが必要。歯磨きや歯ブラシに代わる、予防につながる新しい提案ができたら」と意欲を語り、若林孝一医学研究科長も「全国的にも例がない先進的な取り組みで、大学の特色の一つにも成り得るもの」と自信。

研究に当たる中路教授は「これからの健診はメタボ、ロコモ、そして口腔が3本柱。口は自分の目で見えて、ケアできるのが大きい。この寄付講座を成功させ、日本、そして世界の健康づくりの先駆けになるというぐらいの気持ちで頑張りたい」とした。

講座設置期間は18年度末まで。